

第1回目に紹介する遺跡は、「稲荷森古墳（いなりもりこふん）」です。

稲荷森古墳全景（西から）



#### ◎遺跡（※1）の概要

「稲荷森古墳（※2）」は、南陽市長岡地区、現在の赤湯小学校グラウンドから南に約100mのところにあります。

今から約1,600年以上前（4世紀後半）の古墳時代に築造されたと考えられています。全長96mの前方後円墳（※3）と呼ばれる形のお墓です。

世界遺産に指定された「百舌（もず）・古市（ふるいち）古墳群」の築造年代（4世紀後半から5世紀後半）と時期が重なります。

現在、東北地方で見ついている前方後円墳の中でも大型で、山形県では1番大きく、東北でも7番目の大きさ（※4）です。その規模からみて古代の置賜地方一帯を治めた有力者のものと思われます。

調査は、下の表のとおり実施されましたが、埋葬部分の発掘調査は、保存のため実施できなかったため、どのような人物がどのように埋葬されているのか、副葬品があるのかなど詳細は現在もわかりません。これまでの発掘調査において、祭祀に使用されたと見られる底部穿孔壺（ていぶせんこうつぼ）（※5）や、高杯（たかつき）（※6）が出土しています。

またすぐ隣の長岡山丘陵（赤湯小学校周辺）は、旧石器時代（※7）から中世までの遺跡（長岡山遺跡）として市内で最も重要な場所の1つです。ここからは稲荷森古墳と前後する時代の方形周溝墓（※8）や方墳と見られるものが数基確認され、祭祀用と思われる土器や鉄製品（鉄剣・鉄鏃等）も発見されていて、稲荷森古墳と関係が深く重要な場所であったことを示しています。またこの長岡山遺跡からは縄文時代中期（約5,000年前）頃のものともみられる縄文土器も多量に出土していることから、当時大きな集落があったことが伺われます。

## 稲荷森古墳出土土器（高杯）



### 調査経過

調査年	調査機関	備考
昭和 36 年（1961）	山形大学	試掘及び発掘調査
昭和 52 年（1977）	山形県史編さん室 ・ 稲荷森古墳調査団	測量調査
昭和 53 年（1978）	山形県立博物館	発掘調査
昭和 54 年（1979）	山形県立博物館	発掘調査
昭和 62 年（1987）	南陽市教育委員会	発掘調査（保存と活用に対応した整備のため）
昭和 63 年（1988）	南陽市教育委員会	発掘調査（保存と活用に対応した整備のため）

「稲荷森古墳」は、昭和 52～54 年の各調査によりその重要性が再認識され、昭和 55 年（1980）には「国指定史跡（※9）」となりました。その後、保存と活用に対応した整備が行われ、現在では市内外から数多くの方が訪れる歴史スポットとなっています。

昭和 63 年調査時の稲荷森古墳全景（東から）



調査区



### <遺跡までのアクセス>

JR 赤湯駅から車で約 5 分。徒歩約 20 分です。画面右の「稲荷森古墳位置図」を参照ください。専用駐車場もあります。なお、古墳形状の保存のため、見学路以外の場所（墳丘斜面など）は立入禁止です。トイレもごございますが、冬期間（11 月頃から 4 月上旬）は閉鎖します。

用語説明

埋蔵文化財	土地に埋蔵されている文化財のこと。具体的には、貝塚・集落跡・古墳・城跡などの遺構と、土器・石器・木製品・金属製品など遺物を指す。
「遺跡」※1	文化財が埋蔵されている土地のこと。埋蔵文化財包蔵地。
「古墳」※2	3世紀後半から約400年の間に作られた土を盛り上げた墳丘をもつお墓。
「前方後円墳」※3	丸い古墳（円墳 えんぷん）と四角い古墳（方墳 ほうふん）をつなげたような形状をした古墳。
「7番目の大きさ」※4	現在、東北最大の前方後円墳は、宮城県名取市にある雷神山古墳（らいじんやまこふん 全長168m）
「底部穿孔壺」※5	主に前期古墳から出土する底がない壺。一般に葬送儀礼に用いられたと考えられている。
「高杯」※6	食べ物などを盛るための器で脚がついている。
「旧石器時代」※7	1～1.2万年頃まで続いたとされる土器を持たず石器を主に使用した時代。縄文時代の前にあたる。
「方形周溝墓」※8	弥生時代から古墳時代にかけて作られた周囲を溝で囲った方形（四角形）の墓。
「国指定史跡」※9	歴史的・学術的価値の高いものとして、文化財保護法に基づき国に指定された遺跡。保存に必要な措置が講じられ、改変が制限される。